

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ライフ西大路花屋町店	階数	地上2F地下1F
建設地	京都府京都市下京区西七条掛越町61	構造	S造
用途地域	0	平均居住人員	0人
気候区分	地域区分Ⅲ	年間使用時間	6,200時間/年
建物用途	物販店, 工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年8月 予定	評価の実施日	2013年11月6日
敷地面積	2,881㎡	作成者	下岡 浩
建築面積	2,366㎡	確認日	2013年11月6日
延床面積	6,725㎡	確認者	下岡 浩



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。交差点の角地に立つ店舗として、景観に配慮したデザインを行い、十分な駐車施設の確保や敷地内緑化に努めた。さらに、物販店舗ということを考慮し、店舗内のレイアウトを自由に変更できるよう配慮し、また太陽光パネルを設置するなど省エネルギーとなるように設備設計を行なった。	その他 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。	
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。利用者が快適と感じるように、室内環境について配慮した。	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。店舗内を自由にレイアウトできるようにするなど配慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 注) 「Q3 室外環境 (敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。庇を出すなどし空間提供を行い、また周辺環境に合うようなデザインとしている。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。太陽光発電を利用するなど、省エネルギーとなるように配慮した。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。有害物質の発生の抑制などに努めた。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。廃棄物の削減、再生利用などに配慮し、地域の対して十分な駐車台数を確保することで路上駐車等に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される